

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500194		
法人名	株式会社 サンシャインライフ		
事業所名	サンシャインプレミアム中津川グループホーム		
所在地	中津川市駒場1666番地の3965		
自己評価作成日	令和5年7月28日	評価結果市町村受理日	令和 5年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2191500194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2191500194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設で2020年12月にコロナ感染によるクラスター発生してしまい、入居者様が減っていましたが、今現在コロナ感染も落ち着いて少しずつ入居者様も入居されています。入居者様(14名)で、押しつけの介護ではなく、入居者様それぞれがしたい事、笑顔で日々を過ごせる事を大切に日常生活での関わりを考え対応しています。取り組みとして、畑を作り、野菜を育てる事。またコロナ下であまり外出も出来ないの、体操を日課とし、施設内でスタッフと一緒に簡単なゲームをして日々をすごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然豊かな立地にあり、目の前には栗畑が広がっていた。鉄骨構造であるが、内部にはふんだんに木材が使われ、木の温かみを感じられる造りであった。開設から5年程度と間もないが、職員間の連携はとれており、職場における資格取得奨励もなされている。日々の記録には携帯端末を利用し、バイタルなども細かく記録され、ケアに活かされている。また、本人の様子を写した写真と近況を家族への手紙として送っており、家族からは好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議、ミーティングの際は、全員で唱和しています。解決すべき問題があった場合、理念に立ち還り解決策を考える様指導しています。	事務所に法人理念を掲示し、毎月の全体会議において唱和することで意識の共有を図っている。また、玄関にも掲示することで、職員をはじめ来訪者にも発信をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為面会を中止していましたが、少しずつ緩和し、現在家族の面会を実施しています、又日常的な交流も行って行く予定です。	地域の福祉避難所としても位置付けられている。また、回覧などの文書を通じて、自治会とのコミュニケーションも図れている。ホーム内には地域住民が集まることのできる場も用意されている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止に心がけながら、今年度は、5月・7月に開催し、お客様の、普段の様子・健康等を報告しています。	5月、7月と運営推進会議を実施し、地域の地区長をはじめ、家族の参加により意見交換がなされている。区長からは地域の情報などを得て、共有されている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、グループホーム部会で関わっていただき、意見をもらい、必要時には、随時連絡、確認をしている。	運営推進会議以外にも、必要に応じて市の担当課と連絡を取り、連携を図っている。また、地域の福祉避難所として、防災関係部局とも協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の勉強では、定期的に身体拘束についての問題に取り組んでいます。又全体会議や運営推進会議でも、職員・関係者の方々に現状等周知し身体拘束のないケアへの取り組みの大切さを厳守出来る様取り組んでいます。	身体拘束について、職員が正しく理解を得られるよう研修の機会を設けている。また、日々のケア方法についても、全職員で検討しながら、身体拘束をなくすためにどうすれば良いかを話し合っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の勉強では、定期的に虐待について学び、虐待の種類を熟知し、事業所内で見過ごされる事のない様に、取り組んでいます。	日々のケアにおいて、無意識で行っていることが虐待となっていないか、職員間で意見交換をしている。虐待の定義について、より深く理解ができるような研修の機会を今後予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門職としてケアマネは理解しているが、今後は、勉強会での課題の内容も、入居者様一人一人の背景や個性・今までの生活状況等十分理解してケアに当たれる様に支援事業等理解できる様にしていきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族様に全ての項目について説明させて頂き、了承を得た上で署名、捺印頂いている。又質問、疑問点には、誠意を持って対応している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活で、入居者様の事での相談等連絡を取らせて頂いております。ご意見、ご要望は、その都度伺って対応しています。	運営推進会議に家族が参加する以外にも、訪問時に職員へ要望を伝えることができている。現在、写真付きの手紙を送付しているのは家族からの要望がきっかけであり、家族から好評を得ている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々変化する入居者様の状況やそれに合わせてのケアの方針等、現場職員かとの連絡・報告を元に、職員全員の意見を聞き取り、ミーティングの場等でより良いケアを相談し決定している。	職員は、毎月の全体会議やミーティング、日々の業務の中で直接、提案を行うことができている。今年度から、会議日程を事前に決めるなど、職員個々が参加しやすいよう配慮している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	コロナ感染の経験を生かして、就業環境や勤務状況を見直しより働きやすい職場にするために整備に努めています。	職員が子どもの行事等に参加しやすいよう配慮したり、希望休が取りやすいシフト作りなど、働きやすい職場環境作りに努めている。また、専門の調理員や正看護師が配置されたことで、職員は負担なくケア業務に取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、その都度、適切な指導を行い能力向上を図っている、又個人のスキルアップに資格取得を進めている。	職員個々の資格取得に向けて、情報提供がなされており、外部研修の機会も提案されている。また、内部研修の機会も設けており、職場全体でスキルアップを目指している。	様々な研修機会を設けており、職員育成に努力している。より充実した学びとなるよう、内部研修・外部研修を計画的に取り入れ、体系的な学びとなることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム部会、ケアマネ部会の研修に参加し、知識、能力の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の押しつけではなく、共にいろいろな日常の作業(洗濯を干して、畳む等)を行いながら、入居者様同士の社会性を見守り、より良い関係性を気づける様にお手伝いしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共に過ごす中で、聞き取った希望・意向・聞き取れなくても表情で感じた事等入居者様の思いを職員で把握・共有しどのようにして実現していくか、職員全員で考え実行する様に努めている。	利用者との日々の会話で、本人の思いや意向の把握に努めている。これらを申し送りノートに記載したり、朝礼などで申し送ることで職員間の情報共有としている。好みにあわせて、昔の映画をみられる設備が整っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望や変化に応じて臨機応変に見直しております。モニタリング等を行い、その時優先すべき事を考えて作成しています。	医師や看護師などの意見も記載し、多職種によるプランニングを実践している。ケアプラン更新時には、生活意向調査を家族にも依頼し、モニタリングとして評価を行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録については、出来るだけ本人様の言葉で、起こった出来事やそれにより気づいた事を記入し、共有し、良いケアの方向性を探って、計画書の見直しに繋がっております。	事細かく時間と内容が記録できるように、携帯端末を使うなど、ICT技術を活用している。これらの記録は、直接、ケアに当たる職員が確認でき、実践に結び付けている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様、本人様の要望に、出来る限り対応できるよう、職員間で相談し、良い方法で、対応出来るよう取り組んでいる。	ホームでの外出支援を行うことで、個別ニーズにきめ細かく対応ができるようにしている。また、理美容サービスを外部から入れることで、地域とつながる機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との関係性をより良くできる様、散歩、外出地域に出かける機会、ふれあいを増やしていけるよう取り組みたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医療機関の医師により、定期的に往診を依頼してる。医師との連携もとれ適切な医療が受けられている。	医師は月2回程度、訪問歯科は必要に応じて随時来訪している。現在の利用者は、すべて協力医を利用している。眼科などの他科利用については、本人・家族の希望を優先している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院関係者と情報交換、相談等を行い、本人様、ご家族様、病院関係者との早期の退院に向けてよく話し合い支援して行きたい。	入院時にはサマリーなどの情報提供を行い、本人が安心して医療を受けられるよう、医療機関と協働している。必要に応じて退院前のカンファレンスに参加し、病院と連携を図っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と良く話し合いを行い、状態に変化の合った際には、主治医や、ご家族様との連携を密にし対応している。	入居時に看取り指針を提示して説明している。終末期には再度説明を行い、本人・家族の意向を確認し希望を尊重している。また、看取り後はグリーフケアを行い、職員ミーティングの場面で振り返りを行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員に対して、急変・事故発生時の初期対応、応急手当の研修を受けられる様に計画している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防署の指導の元、防災訓練を行っている。また多種多様な災害を想定した訓練を行っていききたい。	消防署の指導の下、年2回の訓練を実施している。土地柄、水害想定は考えにくいものの、地震想定など火災以外の災害にも対応できるよう、防災意識を高めている。事業所は、地域の福祉避難所としての位置づけである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方は、親しき仲にも礼儀ありと言う事を自覚し、人生の先輩である入居者様の尊厳を守り、個人のプライバシーを侵害する事のない様に対応しなければならないと指導している。	職員は入居者を「お客様」と呼称し、常に丁寧なかかわりを意識している。日々のケアにおいて、一人ひとりの人格を尊重した関わり方を意識し、支援に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中から、希望を確認したり、思いを汲み取る視点で関わっていくよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた生活がある事を理解した上で、その都度確認し、要望にそった支援に努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナウイルスが落ち着いた時には、以前のように食事の盛り付け、片付けと一緒に行って行きたい。	食事はホームの畑で採れた野菜や地元の食材を活用しながら、季節を感じることもできる献立で提供している。また、専門の調理員を雇用しており、細かな食事形態への対応も可能としている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を元に、畑で採れた野菜を使ってメニューに取り入れています。食事量、水分量の少ない人は、申し送りで職員全員が把握し、好みの物を提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや義歯の手入れ、定期的な歯科医の往診を受けて維持できる様に支援している。	訪問歯科を受け入れており、個々に応じた口腔ケアを実施し、個別ファイルに保存がなされている。毎食後の口腔ケアも入居者のペースに合わせて声掛けし、支援している。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に関しては、失敗を減らす為、トイレへの誘導時間を考えたり、夜間どうしてもオムツが必要な入居者様も、日中は紙パンツに替えてトイレ誘導しています。自信を無くさぬ様声かけ方も注意しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	便汚染があった時、優先的に入浴して頂いている。本人様が希望されない時は、無理に入って頂かずに、曜日を変更し、入浴して頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	電気、エアコンの温度、衣服の調整を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、訪問看護師、職員と連携し報告確認をしています。入居者様の体調の変化は、職員から訪問看護師へ連絡後主治医へ報告している。	個別ファイルには、薬剤情報もファイリングされており、医療職以外でも確認ができる。また、8月より正看護師が配置されたことで、医療連携がスムーズとなり適切な管理がなされている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員間で、入居者様の生活歴を把握し、一人一人の役割、楽しみ等も職員間で相談しながら支援に努めている。	利用者の生活歴や趣味嗜好を把握し、ホームの中で役割をもって、楽しく過ごすことができるよう支援している。また、それぞれの残存能力を維持・向上できるよう工夫している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルス感染拡大防止のため、施設玄関先で庭に植えてある花を見ながらお茶したり談笑を楽しんでいる。落ち着いてきたらドライブ等も考えてる。	コロナのために面会制限や外出制限が行われていたが、ドライブなどの計画を立て、外出ができる機会を少しずつ増やすように働きかけを行っている。事業所周辺には、20分ほどの散歩コースもあり、希望や天候に応じて対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染拡大防止の為、外出して、買い物等は、出来ていません。コロナ感染が落ち着いて外出できる様になったら、お預かりしている金銭からご家族様に了承を得てご自分で買い物出来る様にしたいと考えています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、本人様希望されれば対応する様にしています。又家族様に定期的に電話を掛けて下さるようお願いしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとってただ広だけの殺風景な家にならないように、季節の花を花瓶にさし、テーブルの上に飾ったり、一緒に入居者様と作品を作り掲示したりしています。	共用空間には、季節を感じる事ができるよう、利用者と職員で合作した作品が掲示されている。また、夏祭りの雰囲気を感じられる掲示物もあった。その日の食事メニューをホワイトボードに記載するなど、利用者の楽しみに繋げている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設は、広い共有空間が建物の真ん中に位置している。共有空間から離れ、2~3人で寛げるソファのコーナーがある。共有空間を囲む様に、居室がある。もう少し、工夫したいと考えています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で使い慣れた棚やイス・テーブル等ご自由にお持ち頂いている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアにわかりやすい様に「トイレ」の表示をしたり、居室がわからなくなる方には、ドア扉に名前を表示したりしている。		